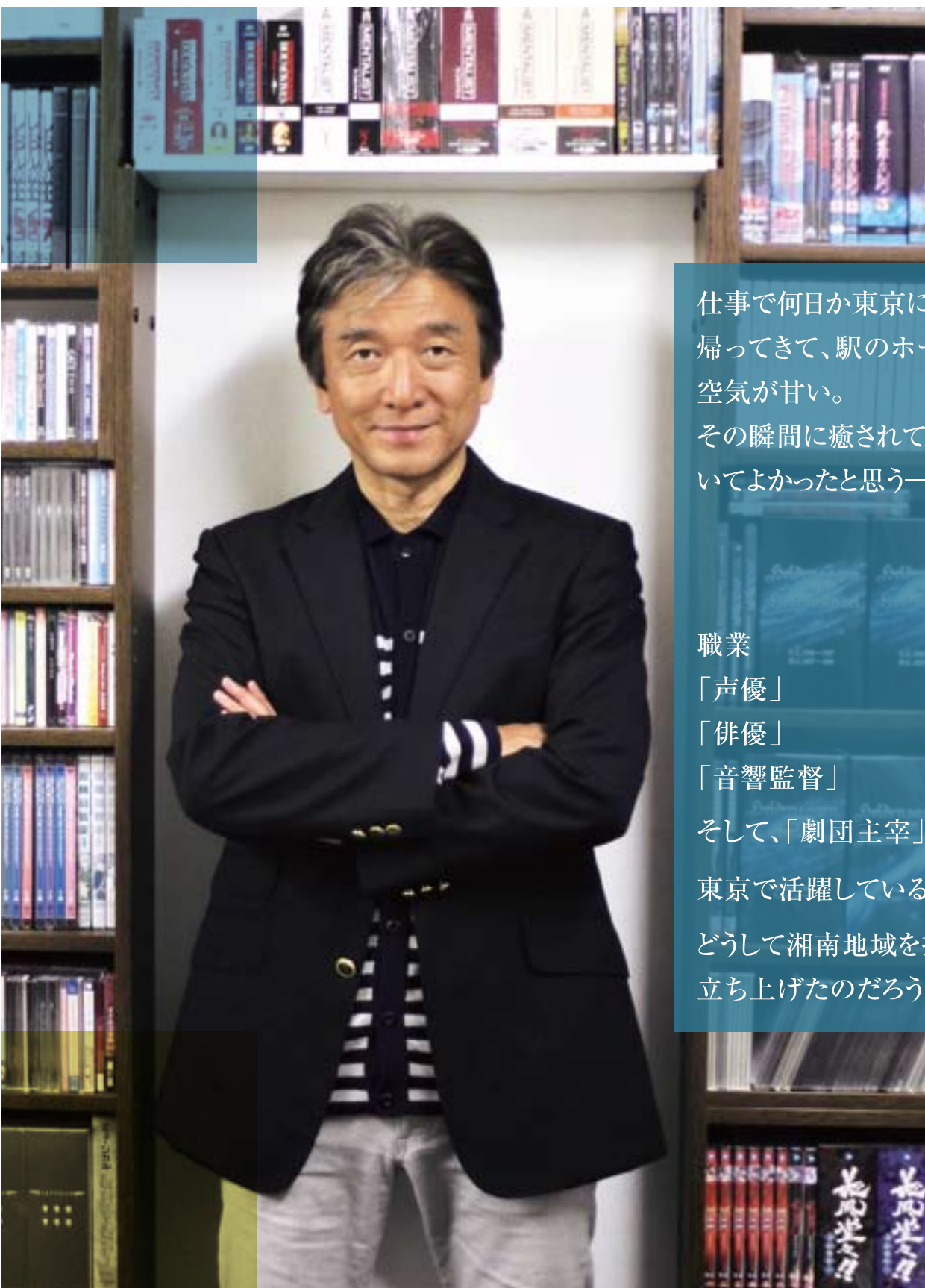


# たわわ

2016  
No. 98

「たわわ」というタイトルには「小さな情報がたくさん集まって多くの実を結ぶように」という期待が込められています。



仕事で何日か東京に居続けてから  
帰ってきて、駅のホームに降り立つと  
空気が甘い。

その瞬間に癒されて、こちらに住んで  
いてよかったと思う——。

郷田ほづみ

職業

「声優」

「俳優」

「音響監督」

そして、「劇団主宰」

東京で活躍している郷田さんが、  
どうして湘南地域を拠点に劇団を  
立ち上げたのだろうか？

# ごうだ 郷田ほづみさん



アフレコ風景

演劇のきっかけは高校時代の先輩です。楽しいよ、と勧誘されて照明の手伝いをしたのが最初で、その後自分たちの代になって短い芝居をやってみただけで何か違うと感じました。演劇を続けることはもうないかなと思っていたところ、文化祭でよそのクラス演劇に飛び入り参加を求められて、打合せもしないで出たらお客さんにウケた。それが楽しかったし、楽しかったこと自体が衝撃的でした。何をやったのか内容はもう覚えていませんが、今でもその体験を思い出します。

大学では劇団に入り、声優をやりながらバラエティ番組にも出演することになりました。演劇的なことや表現することで生計を立てようと思っていましたから、何でも修行と思ってやっていました。バラエティ番組は「怪物ランド」という三人組でやっていて、五～六年はその活動に専念して、その後いち俳優として活動するようになって、若い人たちの劇団を演出する機会に恵まれました。

高校時代までを過ごしたこの地域に再び移り住んでから、ここで何かやりたいな、と思って立ち上げたのが「湘南アクターズスクール」なんです。

♪♪♪  
平塚はこの地域で育った僕にとってはこの辺で一番

ひらけた場所、という印象があって、高校生の頃にはかつて平塚にあった志澤デパートでアルバイトをしていたり、免許も平塚でとったりととにかく馴染みがありました。僕が俳優学校として「湘南アクターズスクール」を立ち上げた当初、たまたま沖縄にあった似た名前のスクールが全国的に有名になった時期だったというのでもあって、最初は分校だと思われていました。全然関係はないのですが。その誤解を解いた後でも、平塚でダンスや歌を教えたいという地元の先生達が集まってきて、今のようになっています。

その中の演劇部門から独立した「湘南テアトロ☆デラルテ」では、毎年秋に一週間行う本公演と、マンスリーシアターという毎月末の土日に実施している公演があります。

本当は、マンスリーシアターのようなものを毎日やりたいと

いう夢があります。宝塚歌劇団や劇団四季のように、いつ行っても安定して面白くて楽しめるものを何かしらやっている、という場所がこの地域にも欲しいと思います。作品を選んで来るお客さんもいれば、出演者を選んで来る人もいて、そこに行けば毎日何かしら楽しいものを持っていると思ってもらえるのが、目標だと思っています。一つの劇団が毎日違うことをやっているというのは日本にはあまりないやり方で、僕はそれをぜひ小劇場でやりたいと思います。

マンスリーシアターは実験的な内容のものも多くて、即興劇だったりリーディングドラマだったり、年間で様々なプログラムをやるように計画しています。それぞれに違った良さがある、例えばリーディングドラマは、目を閉じて小説を読んでいるようなリラックスできる雰囲気がいい、と言ってくれるお客さんもいます。そういう風にお客さんなりの楽しみを感じられるような空間を作りたいです。

♪♪♪

生の演劇の良さは役者と同じ空気を吸って演劇を体験することができる、ということです。同じ空気を吸うというのは、同じ緊張感を味わう、感じる、ということでもあって、そこには登場人物の感情も含まれている。テレビや映画でも登場人物の感情は伝わりますが、生だと余計にそれが伝わるし、その楽しみを多くの人に知ってもらいたいです。



舞台の演出

演劇は観に来る

お客さんのためのものでもあるし、舞台上立つ人のためのものでもあると感じています。毎日公演をしたいということに繋がってきますが、僕は演劇に関わるということをもっと日常のことにならしたい。何か特別なことではなく、日常の中に演劇があるという風にしていきたいと考えています。

17歳の僕が演劇をやめらなくなったあの衝撃的な魅力、より多くの人に感じてもらいたいと思っています。

## 【プロフィール】

郷田ほづみ

ダンス、ボーカル、演技の総合レッスン場「湘南アクターズスクール」代表。

1983年声優としてデビュー。その後、日本テレビ「お笑いスター誕生」でグランプリを獲得し、テレビ朝日「ウソップランド」など企画・構成・出演する。怪物ランド解散後、声優・俳優・演出家・音響監督として活動。数々のテレビ番組・舞台等に関わる。代表作「装甲騎兵ボトムズ」「メンタリスト」「デスパレートな妻たち」「ハリーポッターシリーズ」など。また、駒沢女子大学にて講師を務める。

2016年7月16日から9月25日までの放映を予定されている平塚市博物館のプラネタリウムプログラム「賢治が綴った星空」にてメインレーションを担当予定。また、期間内にプラネタリウムでの朗読劇の上演が予定されている。



舞台風景



## ひらつかの文化財を知ろう⑨

### 平成27年度平塚市の新指定重要文化財

#### ◆「東川斎桂山筆 不動明王二童子像」1幅

江戸時代末の天保年間（1830～1844）、平塚に「東川斎桂山」（とうせんさいけいざん）と名乗る絵師が活躍していました。平塚との関わりははっきりしませんが、福田寺（入野）、神田寺（横内）などにも仏画が伝わり、市内にまとまって作品が存在すること、活動時期が把握されていることなどから当時の平塚の文化を知るうえで、歴史的に重要な人物といえます。



不動明王二童子像  
（縦110.6cm×横42.8cm）



東川斎桂山の  
墨書と印章

この不動明王二童子像は上吉沢の旧家で、30年程前、家の蔵を整理したところ発見されました。平成25年に平塚市文化財保護委員による調査で東川斎桂山筆の掛幅であることが確認されました。近世的絵画の典型例であることや確かな技量に裏付けられた鋭い個性を示す作例と評価されています。画面向かって右下には「東川斎桂山拜書」という墨書と白文方印「桂山」、朱文方印「東川斎之印」といった二箇の印章が認められます。

平塚市には、国、県、市それぞれが指定する文化財があります。日頃触れることの少ない、貴重な文化財について御紹介します。

#### ◆「佐波理匙他 山王A遺跡第4地点1号掘立柱建物跡出土埋納資料一括」

佐波理匙は奈良東大寺正倉院に匙面が木葉形と円形のもの納められており、朝鮮半島新羅（しらぎ）からの舶載品と考えられます。本資料は木葉形で形状・材質・構造ともにこれらに類似し、古代律令体制下の中央と相模国との関係を示す貴重な資料です。

山王A遺跡は四之宮の相模国府推定地内にあります。建物の柱の脇に丁寧に匙を置いた出土状況から、建物の安全や魔除けを祈願した地鎮と考えられ、寺院または役所などの重要な建物であることが示唆されます。



佐波理匙の出土状況（匙全長26.4cm）

※「不動明王二童子像」は普段は非公開ですが、8月6日（土）に平塚市教育会館で「第5回平塚市遺跡調査・研究発表会」が開催され、特別講演として平塚市文化財保護委員の吉田英里子先生に『幻の画家 東川斎桂山と平塚』（仮題）を講演いただく予定です。また、「佐波理匙」は平塚市博物館2階で展示しています。

## 姉妹都市提携

# 25周年

## ローレンスレポート⑤

アメリカ・カンザス州ローレンス市と平塚市は平成27年9月21日に姉妹都市提携25周年を迎えました。これを記念した連載5回目は、ローレンス市から寄贈いただいた記念品（切り絵）を紹介します。

昨年10月19日から10月23日まで、ローレンス市公式訪問団9名が姉妹都市提携25周年を祝うため、平塚市を訪問しました。10月20日、ホテルサンライフガーデンで開催された記念式典で、ローレンス市姉妹都市諮問委員会の委員長ケリー・ショルツさんから落合市長に記念品（切り絵）が贈呈されました。



ローレンス市公式訪問団が  
市長を表敬訪問

この記念品は、アンジー・ピックマンさんが制作しました。ピックマンさんは、ローレンス市在住で、広く知られた切り絵作家です。その作品には伝統的な切り絵の手法



ケリー委員長（右）から  
落合市長へ記念品（切り絵）を贈呈

とコラージュを融合させて生み出される細かく複雑なものやアニメーションがあります。彼女は、2004年ニューヨーク大学のTisch美術学院から修士号を取得しています。在学中に彼女は初めてロッテ・ライナー氏

（1899～1981）から、影絵アニメの技法を学びました。ライナー氏の、自然や、静かな田園地帯への愛、同時にその作風や技法に触発されて、ピックマンさんは、今日まで続く美術家への道を歩いてこられました。

この記念事業にあたり、制作委託されたピックマンさんの作品には、カンザスの風景が描写されています。大平原の植物、ひまわり、そして日本の桜も描かれています。背景を見るとカンザス大学及び神奈川大学のキャンパスに建つ建物があるのに気づかれると思います。両大学とも両市にとり欠かせない存在です。作品の中で万人が共有する太陽のもとに、すべてのイメージは影絵となっています。

この作品は平塚市役所市庁舎7階「姉妹都市ローレンス市の部屋」に展示されています。

（訳者 片山宣子）

アンジー・ピックマンさんHP  
<http://ruralpearl.com/blog/>



アンジー・ピックマンさん制作の  
記念品（切り絵）

# 『史跡の風景』第17回

## 古代の湾岸道路 もろこしが原



平塚海岸の景観 西方の高麗山、富士を望む

もろこしが原といふ所も、砂子のいみじう白きを二三日行く。「夏はやまなでこの濃く薄く錦をひけるやうになむ咲きたる。これは秋の末なれば見えぬ」といふに、なほ所々はうらこぼれつ、あはれげに咲きわたれり。もろこしが原に、やまとなでしも咲きけむこそなど、人々をかしかる。

〔訳〕”もろこしが原”という所では、とても白い砂の道を二三日歩きました。「夏は大和撫子の花があちらこちらに密集しながら、錦の布を敷き並べたように咲くということですが、今は晩秋ですからその情景を見ることはできません」というのですが、今でも所々に季節遅れの花がいじらしく咲いています。外国を意味する”もろこし”の地名の場所に”大和”撫子が咲いているなんて、と旅する面々は皆おもしろがったのです。

この文章は平安時代に書かれた「更級日記」の一節です。作者の菅原孝標女（すがわらのたかすえのむすめ）は、上総（かずさ 現在の千葉県中部）国司の任期を終えて都に戻る父親に伴って相模国を通ります。このとき彼女は13歳、源氏物語に胸をときめかせる文学少女でした。更級日記が書かれたのは作者の晩年とされていますので、もろこしが原の記述も遠い記憶をたどって書かれたものであり、場所を特定するのは難しいと言えます。しかし、この記事の後には足柄山の記述が続きますから、相模湾沿岸とみて良いでしょう。



花水河畔より高麗山を望む  
昭和5年（渡辺廉太郎氏寄贈）

さて旅の一行は白い砂地を西へと進みます。天保年間に江戸



今では「とうがはら」という呼び方が定着しています。

幕府が編纂した「新編相模国風土記稿」の片瀬村の項には「鎌倉より大磯驛に達せし古道は海濱にあり」と記されています。近世には確かに浜辺の交通路が認識されていたのです。現代とは異なり道路事情が良くなかった古代において、雑草が生い茂ることのない海岸の波打ち際が維持管理のいらない便利な交通路であったことは容易に想像できます。

では「もろこしが原」とはどの辺を指すのでしょうか。更級日記では「二三日行く」と記していますから、かなり広い範囲と思われる。17世紀に編纂された「新編鎌倉志」の挿図には、江の島に近い境川河口の東岸に「唐原」という地名が記される一方、江戸時代の国絵図では花水川の東岸に「唐が原」の記載がありますから、この間の海沿い地域を広く「もろこしが原」と呼んでいたのかもしれない。確かに江の島を挟んで東側の砂浜は砂鉄を多く含んで黒っぽく、それに比べると西側の砂浜は白っぽく見えます。ただこの地域が大陸の国々を意味する「もろこし」と呼ばれるようになった背景にはやはり、朝鮮半島からの移住者たちが暮らし、「高麗」の地名を今に伝える花水川河口周辺の文化にその源が求められるのではないのでしょうか。



花水川河口の西岸、現在の「唐ヶ原」交差点

### 平塚市文化振興基金に御協力を

平塚市文化振興基金は、市民文化の振興を図るために活用されています。

これからも多くの皆様が、良質の文化に触れる機会を増やすことができるよう、基金に御協力くださる方は、平塚市文化・交流課まで御一報ください。(0463-32-2235)

平塚市文化振興基金に御寄附をいただいた方(平成28年2月から平成28年5月(敬称略))

◆進和学園・しんわ本人自治会(H28.3.29)

※たわわ97号にて掲載しました御寄附をいただいた「平塚市ビルメンテナンス業協同組合」の名称に誤りがありました。訂正をして深くお詫びいたします。

(正)平塚市ビルメンテナンス業協同組合(H27.12.15)

発行 平塚市文化・交流課

〒254-0045 平塚市見附町 15-1 平塚市民センター内 電話 0463-32-2235 FAX 0463-31-6466

平成28年(2016年)6月15日発行 e-mail bunkoh@city.hiratsuka.kanagawa.jp ホームページ <http://www.city.hiratsuka.kanagawa.jp/bunka/index.htm>

再生紙を使用しています